
12 番 前 田 正 勝 議員

○議長（中西 康雄君）

通告順6番 前田正勝議員の発言を許可します。

○12 番（前田 正勝君）

12 番 前田正勝でございます。ただいま議長のお許しをいただきましたので、本日は2項目ほど伺いたいと思います。

まず、高齢者外出支援事業と、今、運行されておりますデマンドタクシー運行事業についてですが、大台町においても公共交通空白地域が存在し、現在、高齢化社会の中、そして家族関係の変化の中で、マイカー等の利用ができない高齢者にとって日常生活上不便な状況があり、このことを解決すべく本町においても町営バス、これは宮川地域なんです、最近道の駅へも入ってきたそうですが、それからデマンドタクシー、そしてタクシー券発行の高齢者外出支援事業で取り組まれています。

タクシー券について、町民の皆さんから多様な声を聞くことがあります。デマンドタクシーについては試行運転から本運行に入っています。運行開始後、期間も短いこともありますが、私は皆さんに喜んでもらえる事業として、より有効な事業として存続を望むものでありますが、これらの事業についての現況を伺いたいと思います。

○議長（中西 康雄君）

尾上町長。

○町長（尾上 武義君）

それでは、高齢者の外出支援助成事業、あるいはデマンドタクシーの利用状況等について、お答えをいたします。

高齢者外出支援事業につきましては、いわゆるタクシー券の事業ですが、平成 20 年度 917 名の方から申請をいただきまして、そのうち 888 名の方にタクシー券を発行いたしました。2 万 6,069 枚のご利用をいただいております。でございますが、住民税が課税されている 29 名の方には、所得制限がございます、タクシー券を発行できませんでした。

平成 21 年度は 867 名の方から申請をいただきまして、うち 830 名の方にタクシー券、4 万 1,616 枚を発行いたしております。また、所得制限によりまして 37 名の方にはタクシー券を発行できなかったと、こういうことでございます。

タクシー券の利用につきましては、町民の皆様からいろいろなご意見をいただいておりますが、中でも税金を払っている者が所得制限でもらえないのはおかしいというような声もございます。この方々につきましては、この制度の取り組み等説明し、ご理解をいただいているところでございます。

また、家の庭から乗れます外出支援助成事業に比べ、デマンドタクシーは停留所まで行かなければならず、大変でありますから助成額をもう少し上げてほしい等のご意見もございますが、現時点での助成額の引き上げは考えておりません。

こういった生活に密着した事業は、持続性が最も重要でありますことから、皆様からのご要望にすべてお応えさせていただいておりますと、将来、大変なことになりかねませんので、私といたしましては皆様のご要望に対しては慎重に対応しなければなりませんので、何とぞご理解を賜りたいと存じます。

次に、デマンドタクシーの運行事業につきましては、大台地域の交通空白地域における移動手段の確保を目的に実施しているものでございます。この実施にあたりましては、まず平成 20 年 5 月から同年 11 月までの 7 ヶ月間デマンドタクシーのシステム等が、地域の方々の移動手段として受け入れられるのかなど、検証するため試行期間として実施をさせていただきました。

試行の結果、交通空白地域の移動手段として、有効な手段であるとの確信をいたしましたので、試行中にいただきました要望や問題点を改善整理し、平成 20 年 12 月 1 日より本運行に切り替えて現在に至っております。なお、施行期間中にいただきました路線コースの変更、路線の延長、郵便局、銀行、医院、農協等への停留所の設置、停留所看板の設置、運行時間の見直し、高齢者等への減額制度などの要望につきましては、できる限り改善し本運行をさせていただきました。その後は要望や改善

点のご意見等は伺っていないと思っております。また、利用者数も試行時と比較いたしますと、かなり増えておりますので、ある程度ご満足いただいているのではないかと安堵しているところでございます。

利用者数につきましては、試行時と本運行の1ヶ月の平均利用者数を路線別にご報告を申し上げます。まず千代柳原線は試行運行中時が9名で、本運行では10名でございます。長ヶ線は試行運転時が55名で、本運行では108名に増えてございます。上菅下菅線は試行運行時55名でございましたんですが、本運行では83名でございます。滝広線は試行運行時17名でございましたんですが、本運行では62名に増えてきておると、こういう状況となっております。

この運行内容でなく、また各世帯にお配りをさせていただきました、町営バスとデマンドタクシーの時刻表の中に、参考として載せさせていただきました三重交道路線バスの時刻表とJRの時刻表に川添地区の時刻が載っていないと、数名の方々からお叱りをいただきまして、誠に申し訳ないことでございました。この件につきましては5月25日に配布しました、平成21年6月1日からの新時刻表で改善をさせていただいたところであります。

また、川添地区の方から、なぜ川添地区にデマンドタクシーを走らせないのかというような問い合わせや、是非走らせてほしいとのご要望をいただいておりますが、デマンドタクシーはさきほども述べましたように、大台地域の交通空白地域の方々の移動手段の確保が目的であり、この地域には三重交道路線バスが運行されております。町といたしましては、平成21年度にこの三重交道路線バスを多気町から三瀬谷駅まで維持確保するため、町から三重交通に141万7,000円ほど負担をいたしまして、移動手段の確保に努めているところでございます。このデマンドタクシーの運行につきましては、ご理解とご協力をお願いをしまして、答弁いたします。

○議長（中西 康雄君）

前田議員。

○12番（前田 正勝君）

今、るる町長説明されました。私もこの乗客の増、数字を見まして、私も感心をしたところであり

ますが、ただ、この路線のいわゆるダイヤは午前が3便、午後が3便で、計6便で運行しているということなんですが、この試行時に利用者から増便の要求があれば各路線2便、予算的に183万円となっておりましたんですが、20年の予算にもこれを確保するために、20年度予算を732万円計上されたんですが、21年度の予算では659万円ぐらいですか、これはニーズがなかったということなんだろうと思いますが、ただ、これも同僚議員の話なんですが、私も町民の人からの声なんですが、この午前中3便は上りというとおかしいんですが、いわゆるこの役場めがけてという話ですね。上りと言っていいのか、で午後は下りで帰ってくるという話なんだそうですが、多分間違いないと思うんですが、ここで、その午前中の便で仮に大台病院へ、その方は大台病院にこう通院されているんだそうです。

そこで病院で、時に診察が午後に回るといふときがあるんだそうです。結構あるんだそうです、そういうことが。そうすると午後まで待っておらんならんで、それはとても大変や、2時間も3時間ぐらい、1時回っていくんやそうですが、何とかこの午後に上りの便を増便してもらうことができんやろかのうと、そうしてもらうと有り難いんやという話を聞きましたんです。これは試行のときこういう計画もあったということなんで、これができるかどうか。このことをやればさきほど町長が申されたこの乗客数の数が増える可能性も出てくるんじゃないですか、そんなふうに私は感じるんですが、それを一考してほしいんです。

あとデマンドタクシーの件については、評価はすごく良かったです。助かるとか、有り難いとか言っておられました。そういうことで、その帰りはそれこそタクシー券を使って帰ってくるで大丈夫だと、こういう話です。この増便について町長の考え方をお願いします。

○議長（中西 康雄君）

尾上町長。

○町長（尾上 武義君）

はい、それぞれ100%満足できることにはなっていないということは、私も承知をいたしております。この試行期間中にそのようなこともですね、最大限できる限り調整もさせていただいて、本運行になってきたと、こういうようなことでございますんで、いわば多少不満もおありの方も、それはそ

れなりに見えるんだろうと思います。

ただ、この部分としましてはですね、いわゆる交通空白地域を含めていかないかんというふうなことで、三重交通がこう走ってますよと、その三重交通でももう何時何時とはっきり決まっておるわけですね。その時間にあわさんならんということですよね。そのことがやはり自分たちの病院の都合とか買い物の都合とか、いろんなことがあるんだろうと思いますが、ある程度それはご辛抱いただかなあかん部分も出てくるわけですね。それはそれで思いとしてはよくわかるんですが、すべてその行政がそちらのほうにあわせるというわけにも、これなかなかいかんという、そういったようなこともございますし、再現なくサービスをどんどんどんどん行かなあかんのかというふうなことになりますんで、一定のところでご辛抱いただかなあかんという、そういうこともご理解いただきたいというふうに思います。

また、タクシー会社に聞きますとですね、やはたそこら辺は上手に使われておると、朝そのデマンドタクシーでやって来て、帰りはいわゆるそのタクシー券を使ってですね、2人、3人で乗り合わせでスーと行くと、そしたらもう本当に自己負担少なくて行けるんやというふうなですね、上手に使われてますよというふうな、そんなお話も伺いましたんで、それはそれなりに運用を賢くやっていただいております。

そういうことで、ひとつご辛抱いただかなあかん向きも一部にはあろうかと思いますが、そのようなことで、ひとつご利用いただきたいなと思っております。以上です。

○議長（中西 康雄君）

前田議員。

○12 番（前田 正勝君）

上手にタクシー券を使っているという話ですが、この裏にも少し何か変なものがあるような気がするんですが、今日はその点は避けます。

この試行運行初めの3ヶ月間で、利用者からの聞き取り調査と資料の収集を行ったうえで、改めてデマンドタクシー、外出支援事業について再検討し、最も適切な方法を選択し、本運行の実施を進め

ていきたいとありましたが、本町ではこの3つの事業が実施されております。さきほども広げ過ぎたら、その縮めるのは大変やという話に、これはさきほども町長の答弁の中にチラッとあったんですが、全くそうやと思うんです。これ3つの事業やって、21年度約4,200万円ぐらいこう予算を組んでおるんですが、この3つで。そこら辺もちょっと慎重にやっていただきたいと思うんですが、それはちょっとぐらいは町長、私のニュアンスなんやけど、ちょっとぐらいのことは辛抱してくれという話なんです、それはできるとしても、何というのか本当にこう有効に使えるように考えていくということも、これは行政の1つの役目ではないかとそう思います。

これは協働では、先日の町長の答弁、話の中に、協働ではちょっとやれんことなんで、そこら辺は上手くやってほしい。これ皆さんの血税なんですから、やってほしいとそう思ってます。

そこです、これもさきほどの話に似た話なんですが、タクシー券は旧大台地域でやってましたですね。今は大台町全域です、やってます。これについては宮川地域は町営バスが走っておって、ダイヤはちょっと私も見てないんでわからんけど、これはそれこそ大台地域と宮川地域との差異がないのか、タクシー券の利用状況わかればお教え願いたいと思います。

そして、これはときどき聞くんですが、ボランティアでやる。シルバーの人なんです、まだ元気で運転する、プロの運転士さんもみえる。シルバー人材というとおかしいんですが、その人が、「おらそんなの自家用車でいくらでも送迎したるぞ。」という話も聞きます。これはちょっと私も言うんですが、これは法があってなかなか難しい部分があるで、多分あかんやろなという話をするんですが、これらのことも町長は見識持っておられると思うんで、あればちょっとお聞かせ願いたいと思います。これあわせて。

○議長（中西 康雄君）

尾上町長。

○町長（尾上 武義君）

これ3事業というようなことで、町営バスなりタクシー券の外出支援事業、それからデマンドタクシーというようなことでさせてもらっております。4,000万円を超えるような予算でございますか、当

然、我々としては慎重に対応していかなければならないということは、もう言わずものがなのところでもございます。

その片側ですね、一方ではやはり有効に使っていただきたいという、そういうことでございますので、そこら辺はしっかりその公益性ということ十分に感じながらですね、対応してまいりたいというふうに思っているところでございます。

ただ、今も、昨日もお話が出てきました今の集落対策のことですね。とりわけ旧宮川でのほうになりますと、いわゆる町営バス走っておってもそこまで出てくるだけでももう大変なんやというような方々も多くなってきておるという状況なんですね。そういったその地域の実情というのはそれぞれ違います。これだけ広くなりますとそれぞれ違いますんで、それなりの対応ということも考えていかなあかんのやないかと思っておるんです。

ただ、それ私はですね、全部が全部行政でちゃんと運転手付けて、きちっとダイヤも組んで全部しますよということではないんです。端的に言えば、今は私の頭の中ですけど、8人なら8人乗りワゴン車買ってきてですね、地域の人でダイヤ組んでいただいて、グルグル回っていただいて、年金をもらいにいくとか、買い物に行ってもらうとかいうのは、その地域内になりますけども、あるいはそのバスへ乗ってもらうところまで連れていくとかですね、いろんなそういうような方法もあるのではないかなというように思っておるんです。そういうことで、まだまだ地域の実情というのをこう考えていくとですね、考えていかなければならない部分がございます。

そのタクシー券で大台、宮川で差異はないのかというふうなことでございますが、それはそれで年間48枚というふうなことでお配りをさせていただいて、その範囲で使っていただいと、で、所得制限も当然かかりますから、そういう範囲でお使いいただいと、何ら差異は発生をしてきていないというふうに理解をいたしております。

また、シルバー的にですね、ボランティアとしてやってあげるよというふうなことで、こう言われるのはですね、個人と個人の契約の中でね、「おおっ行ったろ」というようなことで行くのは、これは日常よくあることですから、その範囲じ何も問題ないと思うんですね。ただ、公が囃んでですね、やっていくとなりますと、それはやはりきちとしたものも出てこならんというふうなことでございます。当然、委託料もしても発生しますし、料金取るなら料金取るというふうなことで、許可制というふうなことも必要ですし、それらの対応になってくるという、そのだけのことだろうと思うんですね。

ですんで、今度、津へ行かなあかんのやったら、「それやったら行ったるわ、俺もついでや。」というふうなことで行く、これはお互いのことで処理できることですから、それはそれでいくらかもやっ

ていただいたらいいことだと思ってます。そういう生活の延長ということですね、考えていただければそれで結構だと思います。以上です。

○議長（中西 康雄君）

前田議員。

○12 番（前田 正勝君）

それでは、次に奥伊勢ハイウェイパークについて伺いたいと思います。

本年2月5日にオープンの紀勢自動車道、奥伊勢パーキングエリアの営業施設を、大台町、大紀町、そして民間団体、これは商工会等の出資で第三セクターによる株式会社、これは奥伊勢ハイウェイパークということになっております。今、営業されております。

この営業施設の設立趣旨では、高速道路の開通に伴い、沿線市町では、いわゆるストロー現象で、素通りの町となることから、この施設を地域特産品の販路拡大、来訪者を地域内へ誘導するアンテナショップ的な役割を持つ施設として活用することにより、沿線市町全体の集客力を高め、地域製品の消費販売など農林水産業、商業等の各分野においての経済的なメリットを生み出すとともに、地域産業の活性化による新たな就労機会の創出を図ると、こうなっております。

これらのことについては、私の願望でもあるんですが、第三セクでの営業ということで、先般の議会でも議論のあったところですが、今わからない部分が、私にとっては多々あります。町長はこの施設をどのように位置付けされ、成功に導かれていこうとされているのか、今後の方向性を改めて伺いたいと思います。

○議長（中西 康雄君）

尾上町長。

○町長（尾上 武義君）

それでは、奥伊勢ハイウェイパークについてお答えをいたします。

本年2月の5日に物販で仮営業しました奥伊勢パーキングエリアですが、6月1日には飲食コーナーを開設をいたしまして、本営業を開始したところで、3月28日からETCを利用すると、休日の通行料金が上限1,000円となりまして、交通量が増えたことも重なり、多くの皆様にご利用いただいているところでございます。中日本高速道路会社の資料では、3月の日交通量が約6,700台で、当初予想しておりました6,800台に近い交通量で、まだ実績資料はございませんが、通行料金が割引きとなってからは、さらに交通量が増えたと聞いております。

奥伊勢パーキングエリアの営業施設の運営につきましては、大台町、大紀町と両町商工会が出資しまして、設立をいたしました第三セクター方式の株式会社奥伊勢ハイウェイパークが運営をしております、代表取締役を中心に、私も含めた取締役が経営方針を定め、その方針に従い現場スタッフが一致団結して業務に取り組んでいるところでございます。

まず1点目のパーキングエリアの位置付けにつきましては、会社の定款の目的にありますように、1つ目には飲食店、売店の経営、2つ目に食品、飲料水及びたばこの販売、3つ目には農産物、水産物、木製品等の加工及び販売、4つ目には観光案内に関する情報の提供、5つ目には各種イベントの企画、運営、管理、6つ目に全各号に付帯する一切の業務を営むこととなっております。

で、この会社は、大台町、大紀町の観光情報の提供や地域産品の販路拡大、来訪者を地域内へ誘導するアンテナショップ的な施設で、奥伊勢パーキングエリアに立ち寄っていただいた方に積極的にPRを行い、大台町、大紀町内の各インターチェンジで下りていただくよう、働きかける役割を担っていると考えております。当然、利益を求めることは必要でございますが、高速道路利用者の皆様と地域をつなぐという役割を認識して、運営を行っていくようお願いをしているところでございます。

2点目の今後の方向性につきましては、さきほど申し上げましたことを基本として、大紀町とともにこの施設を活用して積極的に地域の観光情報を提供や、屋外スペースを活用して、地元でとれた野菜をはじめとする農林水産物の対面販売などのミニイベントを開催し、地元産品のPRに努め、奥伊勢地域への集客拡大を図っていきたいと考えておりまして、会社へも町の意向を伝えているところでございます。

また私としましては、新たな販売商品の開発や、都市圏の旅行会社などへ奥伊勢パーキングエリアへの立ち寄りをPRし、奥伊勢地域への集客を高め、地域の経済的なメリットを生み出すとともに、

地域産業の活性化による新たな就労機会の創出にもつなげていければなと考えておりますので、ご理解をお願いし、答弁いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（中西 康雄君）

前田議員。

○12 番（前田 正勝君）

この営業施設については、さきほど町長申されたんですが、私の知るところでは大台町と大紀町の両商工会と行政が参画をして、経営を行っていくということなんですが、先日も町長は協働についての理念を、昨日でしたか熱っぽく語られたんですが、ここでもこのことを活かして経営に取り組む必要があるんじゃないかと、求められるんじゃないかと、そう思うんです。

そこで、大台町には観光協会があるわけなんですね。その観光協会もこれも結構予算的に今年度は増額されておるんで、ここがやっぱりしっかり頑張っていただくということを、私はこう希望するんですが、これは、この観光協会そのPAについてどんな位置付けをされておるのかと。

それから、道の駅のハウスにこう、いわゆる事務所と言うのですかね、あそこへ持っていくという話なんですが、なかなか姿が見えてこんのです。私も何をやっておるのかなとこういつも思うんですが、ここら辺もどうなっておるのかということ、これは本当に観光協会頑張ってほしいと思っております。

それから、これが一番あれなんですが、オープン時に、2月の5日のオープン時に募集をされた出店者を、それでそのとき、こう出店された一部の出店者の中に、その後もう全然話がないというのか、具体的なあれが何もないと、我々農家もそうなんです。農家、納める品物を書けとか言て、産業課でしたか、もらってオープンの前に皆登録したはずなんですが、これも一切前へ何も進んでいないような気がするんです。これもどうなっておるのか。

それから、この出店者の方が、「どこの誰にこの話をしていたらいいんか、わからんのや。」と言うて困っておられました。もう1人の人は、「これまだこのまま行ったら、あのPAあかんようになっていくよ。」と言われたんです。ほに最近の話、そんなところも踏まえて、こうしっかりやってほ

しいんです。この設立趣旨が絵に描いた餅にならんように、町頑張ってやっていただきたいと思うんですが、その点はちょっと町長の所見を伺いたい。

○議長（中西 康雄君）

尾上町長。

○町長（尾上 武義君）

はい、ありがとうございます。町のその観光協会でございますが、先だってこの観光協会のトップも変わりました。道の駅の駅長をしておる古畑氏が協会長に就任をされたということでございます。

で、それに連れまして、今年度計画をいたしております観光協会のその事務所でございますが、これにつきましても今計画中でございます。そのうちに形として見えてくるんじゃないかなと、こう思っているところでございますが、その観光協会とPAとの関連でございますが、当然、一部には重複した部分もございます。いわゆる観光情報の発信とかですね、いろいろなそのPRというふうなことは、これはもう当然双方持っている機能でございますが、この観光協会としてはやはり地域の経済を底上げしていく、そういう役割を持っているわけですね。

したがって、町内でのいろんなイベントの実施なり、あるいは集客交流を図るためのいろいろな施策なりですね、あるいは地域の魅力を支えるというふうなことも、非常に大事なことでございます。そういうことで、今後しっかり努めていっていただきたいなというふうに思っておるところでもございます。

で、ややもしますと、この三セクとかですね、いわゆる道の駅とかフォレストピアとか、そういったようなものがこう表へ出がちなんですけども、観光協会というのはそれだけではなしにですね、いわゆる地域の食事をするところなり、寝泊まりするところなり、いろんな人たちが入っていただいて、会費負担も当然していただかんんですけども、そういった人たちのその所得というのですか、そういったようなのは上げていくような機能も観光協会としては持つておるということを、私、ずっと思っておりまして、そのことのいろんな施策をですね、やはり展開していく必要がある。そのためにやはり今の高速道路なんかも活用しながらですね、こちらへ引き込む努力、その一番手っとり早い

がPAなんやという部分もございますんで、そこら辺をしっかりとですね、アンテナショップという
ような形で対応していただきたいと思いますなと思っております。

それから、その出店者の方が最初のときに話はあったとはいうものの、もうそれから何にも話ない
やねえかと、こういうようなことでございます。6月1日に飲食がスタートとしてきたとこういうこ
とで、まだまだその会社が始まってですね、ほやほやの段階でもございます。まだバタバタしたとこ
ろはあるようでもございますが、今後ですね、そういったその出店者の方々に随時その出店もしてい
ただけるようなですね、お申し込みはこちらへというふうなことで、つながりやすいですね、地域の
皆さんとつながりやすいような会社でなければならんということも思っておりますんで、そういう意
味も含めながらですね、しっかり対応していかなあかんなということを思っているところでございま
す。

このままではPAあかんぞよというふうなお話もあったようでございますが、売上もですね、月平
均900万円を超えてきておると、これは予想を少し超えておるというようなことでもございます。6
月からその今の飲食が始まりましたんで

、余計に上がってくるんやないかなということを思っているところでございます。

そういうことで、今後は当然その経営というふうなことも重点を置いていかなあかんのですけども、
やはり公益性を持ったところでもございますので、そういう部分でやはり地域へどれだけお客さん呼
び込んでこれるのか、これは観光協会の、あるいは私どももそうですし、PAもそうですし、皆がで
すね、やはり対応していただくということが、非常に大事だろうと思えます。

で、この地域内へ向いてやっぱり引き込んでこれる受け皿とか、魅力とかですね、そういうものを
つくっていく必要が、本当に多くあると思えます。ですんで、例えば熊野古道の伊勢路ですね、現存
しているところもちょうどございますし、私も歩きましたんですが、大変いいところです。ただ、当
時のその姿というのは少し壊れてきておりますんで、ある程度復元していくという、そのこともしな
くちゃならん。これも手を付けていこうとしております。

また、滝広地内に行きますとですね、非常にその大内山川の景観が非常に素晴らしいところもある
んですね。そういったようなところで、やはり利用しやすいような基盤整備をやるとかですね、奥へ
行ってもそうなんですけど、いろんなその資源というのは使いようによってはいろいろあると思うん
です。そういうようなことで、ホテルが飛ぶとかですね、あるいはモミジを見るとか、サクラ見るとか、
シャクナゲを見る等でいろんな部分もあるだろうと思えますし、もっと言えばですね、いろんな趣味
をお持ちの方がたくさんあるんですね。私しょっちゅう言うんですけど、花を見たいという人もおれ
ば、少し散策したいという人もおるし、アユ釣りに行きたいという者もおりゃ、俳句を詠みたい、写

真を見て絵を描きたいとかですね、いろんな趣味を持っておる。ボートもやりたいと思う方もみえるでしょう。

そういったその趣味にこう訴えるようなものも、非常に大事やわなということ言っておるんです。その受皿どのように開拓していくかというのは、これからの課題でもあります。ヒントは私ゲートボールやったんですわ。ゲートボールはですね、川添のふれあいのグラウンドで50チームぐらい県内から協会の方寄せていただくんですね。そうすると7人、1チーム大体6人ですが、7人としても350人ぐらいの方がビューと寄るんですね。それはもう伊賀のほうから名張からですね、あるいは南は熊野のほう、伊勢志摩来てくれるんですね。私はそういう意味では、この地域は昔は木材の集積地やったんですが、そういう意味で人が集まりやすい、こう地形にあるわけですね。それを利用してですね、1日で終わってしまうということで、1日でもったいないなと、あそこのサークルKがすっからかんになってくというふうなことも聞いたんですけど、1日でもったいないと、何とか準々決勝ぐらいこう残ってもろて、この近くの宿舎を、旅館を利用するとかですね、そういったようなことで、もうちょっとお金を落としていただくようなこと工夫してもらえんかいなということで、お話をさせてもらったことあるんですが、町長、それやったらドームつくってもらわなあかんわという話になってきて、到底それは無理やなというようなことで言ったことあるんですが、あれやこれやですね、いろんなその趣味に訴えていくというようになると、これまた強いですね。

この間もシャクナゲの全国の会をここで開いていただいたんですが、シャクナゲのその花のことで大分からですね、あるいは栃木とか富山かからですね、ご夫婦で見えてですね、106名の方が見えたんですね。そのうちほとんど泊まりますわ。そういうようなね、やっぱり趣味になっておる、もう本当に一生懸命になっているんですね。そういうことがありますんで、そういったその魅力づくりというか、そういうものもしていくと、かなり根強い観光といいますか、そういったようなもんにつながって、地域経済がこう浮上してくるという、元気してくるという部分はあるんじゃないかなと思うんですね。

そういうことで、いろいろ思いながら取り組まさせていただきたいなというふうに思っておりますが、PAもその1つとして地域色の強いような、当然地域色のある特色のあるようなPAにしていかなあかん、もうどこへ切っても金太郎飴ではあきませんので、そういう思いを持ってやらせていただきたいなと思っております。よろしくお願いします。

○議長（中西 康雄君）

前田議員。

○12 番（前田 正勝君）

町長、地域色と言われたんですが、この株式会社は経営形態ですね。まずこいつが一番大事かなと思う。どのようになっているのか、社長は当然民間人ということになっております。取締役が6人となっているんですが、この取締役さんはどのような立場の人がなっておられるのか、わかっている範囲でよろしいので、お示し願いたいと思います。

町長、3月の定例会のことだったと思うんですが、この議論をしたときに、町長はこれは私はあんまり口出しできんとかなんやという話、今でもここに引っかかっておるもので、それでもさきほど言われた答弁の中では、ちょっと違うなという、ちょっとわかってきた部分もあるんですが、それでその行政がどのようなところにこう位置付けされておっているのかと、この所轄は大台町は産業課で、大紀町は商工観光課と認識しておるんですが、この施設の営業についてですね、これは会社がやっていくということなんですが、両町のこの所管のチームワークがですね上手くできているのかなと、ちょっとそこら辺がその地域性があって、合併時と同じようなことになってきたみたいな感じで、お互いにこう隣の町と上手くいくように運んでいていただきたい。何かそこら辺がちょっと引っかかるみたいなんで、その出店された方もそんなことをチラッと行ってましたが、そこら辺、できるだけこう上手くチームワークがっちり組んで、地域のために頑張っていたきたいと、そんなふうに思っております。そのあたり、また町長所見あれば伺いたいんですが。

そして、この中日本高速道路の100%の子会社で経営、営業施設のこう経営を行っておるんですね。これは株式会社エクシス、ネクシス2つあるんや、ネクシスやな。看板はネクシスですか、エクシスやな。これ100%子会社、いわゆるこれ天下りの団体だろうと思うんですが、ここが結構力を持っているわけなんで、こことのその、この会社との情報提供の道筋が大きく開かれておるのか、そのあたりもちょっと気になるので、そのあたりもわかっている範囲でよろしいので、町長の所見を伺いたいと思います。くどいようですけど、くれぐれも設立趣旨に基づいて成功してほしいとなってます。

○議長（中西 康雄君）

尾上町長。

○町長（尾上 武義君）

設立趣旨はさきほど申し上げたようなことでございますので、やはり地域の公益性のあるような形のをですね、当然やっていかなあかんということでございます。なおかつ経営もしっかりと見ながらですね、やっていく必要があると、こういうことで頑張ったいと思っています。

で、まずはその経営形態でございますが、まず大台町、大紀町のこの取締役会でございますが、両町長、それから両商工会長、それから森水の社長、森と水を守る会の社長ですね、森の番人、この5人が入っております。あと監査役がお一方は商工会の事務局長さんと自営業の方と、こういうことでトータル7名の役員と、こういうような状態でございます。そういうことで社長は大台町の商工会長さんが務められておると、こういうことでございます。

で、以前私あまり口出しできないというようなことで、お話ししたようでございますが、その部分はですね、あまり細かいことですね、ああやこうやというようなことまでは差し挟んではですね、やはり会社としての動きが鈍っていてもあかんというふうなこともありますんで、それは控えさせていただいておるようなことなんです。ただ、方向性の中でですね、やや違ったような方向性に行っておるぞよというふうなことになるれば、これはちょっとおかしくなってはあきませんので、そういうようなことでご意見申し上げるときはあるかもわかりませんが、そういうような思いでございます。

で、何というのですか、事務方としてはそれぞれの産業課とか、商工観光課というふうな形で対応していただいております。大きな流れの中でですね、おっしゃられるようにご懸念されておる部分はですね、大きな流れの中にはないんですけど、細かいとこへくるとやり方がちょっと違うなというふうな部分が、やっぱりあるわけですね。我々としては、今までいろんなその三セク運営というのは、いろいろこうやってくる中でですね、やはり公益性とかいうふうなもの、やっぱりしっかりと考えながらですね、やっていく部分もあるんですけど、やはり両地域を見ますと、やっぱり我田引水的な部分も多少は出てくる部分もでございます。

そういうようなこともですね、やはり大きな流れの中で、それがいいのか悪いのかという判断の中でやっていかなあかんというふうなことなんですけど、そこら辺はまだ顕著になってきておりませんが、ややそういうような思いというものは、やっぱり出てくるところがあるようでもございますが、

その私はそれが決定的に悪い方向にいておるのかというと、またそうじゃないと思うんですね。ただ、いいほうにどちらもいきたいんですけども、やり方が多少ちょっと違っておる、ちょっと考え方が違っておるということで、完全にこうそつと汽車のレールみたいになってはいないということはあるかも知れませんが、そこら辺は調整をしていけば済んでいくだろうというふうに思っております。

中日本エクシスについてはですね、ご案内のようにトイレから出てきたところの自販機、あれはエクシスが運営です。本当はあそこへ私も起きたかったんですが、そこへは置かせてもらえなかったということで、店内へ2台置いておると、こういうような状態でございまして、私も店内の自販機ばかり利用しておりますんで、どうぞ皆さんも店内の自販機をご利用いただきたいこう思いますんで、よろしくお願いいたしますと思いますが。情報については、しょっちゅう当然高速道路情報はもうこれ中日本がやりますが、それ以外の清掃ですね、トイレの清掃なり、あるいはごみの収集なり、そういったものはエクシスがやっていくということの中で、やらせていただいております。そこら辺で会社と詳しくはまだわかりませんが、会社とエクシスがこう上手く提携しながらやっているんだろうと思います。

ただ、以前にもお話させていただいたんですが、1つの契約の中で8,000万円までの売上については、420万円の賃料と言いますか、その形でいけるとこういうことになっておるんですが、その8,000万円を超えていった場合に、超えた部分については今までは10%というような話があるんですが、まだこの10%は、まだ決着していない、まだ決着していない状況ですんで、ここら辺をですね、どれだけ下げられていくことができるかというのは、今後の焦点ですね。

このままいけばですね、必ずもう8,000万円超えていきます、売上は。ですんで、そこら辺はどうしていくかというふうなことが、これからの1つの課題になってきておるというふうに思っているところでもございます。両町ですとこう一生懸命つつきながらですね、やっていきたいなこう思っております。よろしくお願いいたしますと思います。

○議長（中西 康雄君）

前田議員の一般質問が終了いたしました。

○議長（中西 康雄君）

しばらく休憩します。

再開は11時ちょうどいたします。

（午前 10時 45分）

○議長（中西 康雄君）

定刻となりましたので、休憩前に引き続き一般質問を再開をいたします。

（午前 11時 00分）